

---

# 第 64 回数理社会学会大会 (JAMS64) プログラム【確定版】

---

日時：2017 年 9 月 17 日（日）～9 月 18 日（月・祝）

会場：札幌学院大学 第一キャンパス

大会委員長：高田 洋

---

## 1 参加費、懇親会費（セミナーの参加は無料）

大会参加費	一般（会員）	4,000 円	学生・院生（会員）	2,000 円
	一般（非会員）	5,000 円	学生・院生（非会員）	2,500 円
懇親会費	一般	6,000 円	学生・院生	2,000 円

## 2 主なスケジュール

	時間	D 館 2 階 D201	D 館 2 階 D202	その他
9 月 16 日	15:00～17:00			セミナー（C 館 2 階 C205）
9 月 17 日	9:35～11:15	第 1 部会	第 2 部会	
	11:30～12:45	第 3 部会	第 4 部会	
	12:45～13:45			昼食休憩
	13:45～15:05			萌芽的セッション第 1 部 (B 館 C 館 D 館 2 階廊下ロビー)
	15:20～16:05	会長講演		
	16:20～17:20	総会		
	17:45～19:30			懇親会
9 月 18 日	09:40～11:00			萌芽的セッション第 2 部 (B 館 C 館 D 館 2 階廊下ロビー)
	11:10～12:25	第 5 部会	第 6 部会	

## 3 主な会場（D 館 2 階 D201 および D202）

- 受付：C 館 2 階 Collaboration Center エントランス
- 会員控室・抜き刷り交換コーナー：C 館 2 階 Collaboration Center Space 4 （C206）

## 4 口頭報告者へのお願い（自由報告）

- 部会開始 5 分前に集合して、司会者と打ち合わせをしてください。報告 15 分、討論 10 分です。
- 会場設置パソコンを利用できます(Windows8.1, Office2013)。持参パソコンの場合、VGA ケーブル接続の Windows ノートパソコンが使用可能です（ケーブルは会場で用意します）。いずれの場合も持参の機器は、開場前に必ず接続テストをお願いします。
- ファイルは当日持参してください（USB メモリ利用可）。
- 配布資料は、報告直前に配布してください。残部は持ち帰るか、抜き刷りコーナーに置いてください。
- （司会者の方々へ）部会開始 5 分前に集合ください。報告 12 分で 1 鈴、15 分 2 鈴、25 分 3 鈴を鳴らします。

## 5 ポスター報告者へのお願い（萌芽的セッション報告）

- 1 日目のポスターは来場後なるべく速やかに貼りつけていただき、懇親会の開始時間までには取り外しください。この時点で残っていたポスターはこちらで撤去します。
- 2 日目のポスターは当日の 9 時 30 分までに貼りつけていただき、後ほど取り外しください（閉会後でも結構です）。閉会後 10 分経っても残っていたポスターはこちらで撤去します。
- 最大で A0（縦 1189×横 841mm）のスペースが利用可能。報告ごとにポスター位置が指定されています。

- ・ポスターの貼りつけには画鋲あるいはセロハンテープ（いずれも開催校が用意）が使用可能です。
- ・部会開始5分前に集合してください。

## 6 問い合わせ先

**研究事務局** 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学法学部 竹ノ下弘久

E-mail : jams.research[at]gmail.com, Tel:03-5427-1097

**大会事務局** 〒069-8555 北海道江別市文京台 11

札幌学院大学第1キャンパス 高田 洋（大会委員長）

E-mail : htakada[at]sgu.ac.jp, Tel : 011-386-8111（研究室直通）

## 9月16日(金)

- 13:00~15:00 編集委員会(C館4階C410)  
13:00~15:00 研究活動委員会(C館2階Collaboration Center Space 3(C205))  
15:00~17:00 ワンステップアップ・セミナー(C館2階Collaboration Center Space 3(C205))  
17:15~20:00 理事会(C館4階C410)

## 9月17日(土)

9:00 開場・受付 C館2階Collaboration Center エントランス

9:30 開会挨拶 大会委員長 高田 洋(札幌学院大学) D館2階D201

9:35~11:15 自由報告I

【第1部会】職業と階層  
司会 神林博史(東北学院大学) D館2階D201

1	交友関係の有無による職業威信評価の変化	辻竜平(近畿大学)
2	自営業からの退出と家族の影響 —2015年SSM調査データを用いて—	平尾一朗(大阪大学)
3	雇用の安定性にみる離職経験後のキャリア形成 —2015年SSM調査データを用いて—	麦山亮太(東京大学大学院)
4	増加する非正規雇用と賃金格差拡大	長松奈美江(関西学院大学)

【第2部会】協力・連帯・市場の数理  
司会 前田豊(立教大学) D館2階D202

1	(all D, all C)が一方のプレイヤーにとって最善のナッシュ均衡となる非対称繰り返し囚人のジレンマゲームについて	河野敬雄(無所属)
2	ボラティリティ・クラスタリング創発メカニズムの解明 —シンプルな新型市場ABM「投機ゲーム」による分析—	○片平啓(東京大学大学院) 陳昱(東京大学大学院)
3	いかにしてコーディネーションを解決しているのか —カラオケ・ボックスにおける次の歌い手の決定を事例に—	○小田中悠(慶應義塾大学大学院) 吉川侑輝(慶應義塾大学大学院)
4	寛容する連帯のフォーマライゼーション	三隅一人(九州大学)

\*\*\*\*\*休憩(15分)\*\*\*\*\*

11:30~12:45 自由報告IIと特別企画

【第3部会】書評部会: 小林盾『ライフスタイルの社会学』  
報告者:

ホメリヒ カローラ(北海道大学)

金澤悠介(立命館大学)

金井雅之(専修大学)

リプライ:

小林盾(成蹊大学)

オーガナイザ・司会:

内藤準(成蹊大学)

1	地方都市の社会関係は「都市化」したか	石黒格（日本女子大学）
2	コミュニティ離脱要因に関する検討 —子育て期の母親コミュニティにおける「所属／離脱」比較—	○大戸朋子（KDDI総合研究所） 塚常健太（KDDI総合研究所）
3	母親コミュニティの活動に対する地域効果の検証 —構造方程式モデリングによる「地元／非地元」の比較—	○塚常健太（KDDI総合研究所） 大戸朋子（KDDI総合研究所）

\* \* \* \* 昼食休憩（60分）\* \* \* \*

13:45～15:05 萌芽的セッション（ポスター報告）I

B館C館D館2階廊下ロビー

1	離・死別経験と外国人に対する経済的脅威	○五十嵐彰（東北大学） 伊藤貴史（東北大学）
2	外国籍の親をもつ子どもの就学機会に関する分析 —国勢調査個票データを用いた基礎的検討—	石田賢示（東京大学）
3	アメリカ3州の若年層を対象としたインターネット・パネル調査の回収状況の分析	○伊藤大将（金沢大学） 轟亮（金沢大学）
4	再分配意識の規定要因 —固定効果モデルによる「自己利益仮説」と「イデオロギー仮説」の検証—	伊藤理史（立命館大学）
5	オンライン実験を用いた政治的分極化メカニズムの検討	○稻垣佑典（統計数理研究所） 瀧川裕貴（東北大学） 大林真也（青山学院大学）
6	子どもの政治に対する積極性 —JLSCP2016を用いた小学生から高校生の親子データの分析—	太田昌志（ベネッセ教育総合研究所・名古屋市立大学大学院）
7	相対的リスク回避仮説における「リスク」測定の精緻化に向けて —階級分析への批判的潮流としてのドイツリスク論を参照点として—	川端健嗣（成蹊大学）
8	なりすましか費用節約か? —教育シグナリング・ゲームにおける混成均衡に関する考察—	木村邦博（東北大学）
9	繰り返しN人囚人のジレンマにおける進化的安定性	吉良洋輔（会津大学）
10	モテは生まれつきか—出生前テストステロン暴露の分析による、ニューロ・ソциオロジー（神経社会学）の可能性—	小林盾（成蹊大学）
11	原発事故による生活変化と母親の精神的健康 —5時点パネル調査の分析から—	○阪口祐介（桃山学院大学） 成元哲（中京大学） 松谷満（中京大学） 牛島佳代（愛知県立大学）
12	政治的知識が政治的イデオロギーの母集団分布の形状に与える影響	○清水裕士（関西学院大学） 稻増一憲（関西学院大学）

13	ミニマムゲームにおける非効率性を生む行動に関する研究	○禿寿（大阪府立大学大学院） 七條達弘（大阪府立大学） 小川一仁（関西大学）
14	母親ペナルティにおけるセレクションバイアス	竹内麻貴（立命館大学）
15	動的複雑ネットワーク上の公共財ゲームにおける協調現象	○豊田規人（北海道情報大学） 高橋拓海
16	Web 調査における回答者の回答行動の分析 —CAPI 調査、面接調査との比較を念頭に置いて—	○前田忠彦（統計数理研究所） 稻垣佑典（統計数理研究所）
17	いじめを受ける子どもの規定要因の検討 —社会的側面からのアプローチ—	眞田英毅（東北大学大学院）
18	理容師・美容師の離職にどのような男女差があるのか	森田厚（成蹊大学大学院）
19	Positional Status Index の大学ランクへの応用	山本耕平（京都大学）
20	高年層における住宅格差 —階層帰属意識との関連、持家取得の規定要因から—	吉岡洋介（千葉大学）
21	独居高齢者の婚姻歴と社会的孤立 —2002、2014 年調査の比較検証—	渡邊大輔（成蹊大学）

\* \* \* \* 休憩 (15 分) \* \* \* \*

15:20～16:05 会長講演 D 館 2 階 D201

「アカデミズムの『危機』と数理社会学の可能性」 数理社会学会会長 太郎丸博（京都大学）

\* \* \* \* 休憩 (15 分) \* \* \* \*

16：20～17：20 総会 D 館 2 階 D201

\* \* \* \* 休憩・移動 (25 分) \* \* \* \*

17：45～19：30 懇親会 G 館 8 階

09:10 開場・受付

C館2階 Collaboration Center エントランス

9:40～11:00 萌芽的セッション（ポスター報告）II

B館 C館 D館 2階廊下ロビー

1	夫婦の学歴とその組み合わせが出生力格差に与える影響：SSM2015年調査データを用いた対角基準モデルによる分析	打越文弥（東京大学大学院）
2	調査不能の要因とバイアス：「SSP2015」を用いて	大久保将貴（大阪大学）
3	ポピュリズム、フランス学派、場の理論	落合仁司（同志社大学）
4	健康上の理由による離職の規定因：2015年SSM調査データを用いた分析	神林博史（東北学院大学）
5	大学教員や文系知識人は「革新」的か？科学の政治化と職業による保革自己認知の違い	○龜嘉欣（京都大学） 高明柔（京都大学） 太郎丸博（京都大学）
6	「多元的職業威信スコア」の開発とその特徴	○元治恵子（明星大学） 三輪哲（東京大学）
7	学歴の典型性とその後のキャリアに関する実証分析	○高松里江（立命館大学） 久保田裕之（日本大学）
8	産業の視点から見る非正規雇用形態の多様性—対応分析を用いた視覚的記述分析	田上皓大（上智大学大学院）
9	専門学校学歴の効果における男女差と時代変化 —2015年SSM調査データを用いて—	多喜弘文（法政大学）
10 E	Local labor market contexts and unemployment among immigrants in Japan	竹ノ下弘久（慶應義塾大学）
11	ソーシャル・キャピタルによる「アノミー」への抑制効果に関する実証研究——現代中国社会を対象に—	沈一擎（大阪大学大学院）
12	学歴の経済的便益はコーホートによって異なるか? —SSM2005、2015、JGSS2012を用いた分析—	○豊永耕平（東京大学大学院） 麦山亮太（東京大学大学院）
13	階層の世代間移動における非正規雇用の拡大	内藤準（成蹊大学）
14	Twitter 政治場における言説構造の探索的分析	○永吉希久子（東北大学） 瀧川裕貴（東北大学）
15	公的統計データを用いた社会階層研究の可能性	藤原翔（東京大学）
16	Relations Bring Relations —Co-evolution of Networks, and Self-determination Theory—	○藤山英樹（獨協大学） Kayo Fujimoto (The University of Texas)
17	地位の類似性か、場の近接性か? —SSMデータを用いた夫婦の職業階層結合のネットワーク分析—	○前嶋直樹（東京大学大学院） 打越文弥（東京大学大学院）
18	「隠れた人口」に対応する推定方法について	○前田豊（立教大学） 朝岡誠（立教大学）
19	2015年SSM調査データを用いた地域間移動の検討	溝口佑爾（関西大学）
20	ジェンダー・ステレオタイプと職業威信スコア	脇田彩（立教大学）

\* \* \* \* 休憩（10分） \* \* \* \*

11:10～12:25 自由報告 III

【第5部会】ネットワークと意識  
司会 辻竜平（近畿大学）

D館2階D201

1	統計的ネットワーク分析の視座 —社会ネットワーク分析における意義の検討—	鈴木努（東北学院大学）
2	社会ネットワークが階層帰属意識に及ぼす影響 —EASS 2012 データの分析による国際比較—	鈴木伸生（東北大学）
3	高齢化が政治的態度に及ぼす影響について —2015年SSM調査データをもじいて—	数土直紀（学習院大学）

【第6部会】研究方法  
司会 元治恵子（明星大学）

D館2階D202

1	機械学習を適用した調査現場における追加情報収集システム —職業コーディングの場合—	高橋和子（敬愛大学）
2	社会調査のデータクリーニングシステムの開発と応用 —社会調査実習科目の演習への応用—	羅一等（専修大学）
3	タブーと嗜好品—インドネシアのイスラーム教徒への混合研究法アプローチ—	○小林盾（成蹊大学） 岡本正明（京都大学）

12:25 閉会挨拶 大会委員長 高田 洋（札幌学院大学）

D館2階D201

（備考）

- 1 ○印は登壇者を示します。Eは英語による報告です。The E symbol stands for English presentations.
- 2 「抜き刷り交換コーナー」を設けます。論文、報告書、マニュアル、自作ソフトなどを置けます。事前に「交換用抜き刷り」と表記して大会事務局宛に送付できます。
- 3 ワンステップアップ・セミナー参加（無料）には申し込みが必要です。詳細はセミナー案内をご覧ください。定員に余裕がある場合は当日参加受付もいたします。
- 4 ベビーシッターを利用可能です。必要な方は8月31日（木）までに研究事務局（jams.research[at]gmail.com）にご連絡ください。
- 5 大学敷地内は、指定喫煙所を除いて全面禁煙となっております。ご理解ご協力を願いたします。
- 6 会場内の無線LANは、eduroamアカウントを準備予定です。

（変更履歴）

2017年7月18日 暫定版プログラム

2017年8月7日 大会前確定版プログラム

2017年8月15日 大会前確定版プログラムの修正

2017年10月14日 大会プログラムの確定